

(様式第1号)

新規調査研究計画書（全体計画）

調査研究課題	百日咳の検査体制確立のための調査研究
計画期間	平成24年度～ 27年度 4年間
背景 必要性	<ul style="list-style-type: none">・百日咳は、百日咳菌を原因とする急性の呼吸器感染症で、特にワクチンを接種していない乳幼児が罹患した場合、重症化する疾患である。・現在、百日咳は、臨床診断が主な診断方法であるため、真性の患者数が正確に把握できない状況がある。・正確に診断するには、鼻咽頭分泌液からの百日咳菌の分離同定が必要である。
目的	スクリーニング検査から確定診断(培養陽性等)までの検査体制を確立し、適正な治療の確認をすること、及び将来起こりうるアウトブレイク対策のための菌株保存を充実させること。
計画内容	<ul style="list-style-type: none">・標準菌株を用い当所におけるスクリーニング検査および確定診断検査を検討し、検査体制を確立する。・小児定点からの鼻咽頭分泌液を用いてスクリーニング検査及び確定診断検査を実施し菌分離率調査を実施する。・疑い症例全てについて、スクリーニング検査及び確定診断検査を実施し菌分離率調査を実施する。・培養陽性の場合、菌株を保存する。
研究目標 (達成しようとする成果及びその活用方法)	<ul style="list-style-type: none">・スクリーニング法として LAMP 法を組み込んだスクリーニング検査から確定診断(培養陽性等)までの検査体制の確立。・百日咳菌分離を伴った確定診断による適正な治療の確認。・将来起こりうるアウトブレイク対策のための菌株保存。 (感染症発生動向調査事業の充実)
実施上の課題及び対応	<ul style="list-style-type: none">・小児科定点からの検体採取の実績は、平成22年度0件であることから、茨城県感染症発生動向調査事業に沿った検体搬入について保健予防課との調整が必要。
備考	